



高校生訪問

CPS研究室に到遠館高校から高校生が訪問してくれました！運営陣の方からの感想をいただいています！

先日、高校生が大学訪問の一環で私たちの大学に訪れてくれました。私はAIの脆弱性について講義を行いました。その際、高校生にAIの概念を理解してもらい難しさを痛感しました。特に、AIの複雑なアルゴリズムや攻撃手法を分かりやすく説明するためには、事前に多くの準備が必要でした。

さらに、講義の一環として、視覚的に理解を助けるためのユーザーインターフェース(UI)を制作しました。このUIの準備には相当な時間と労力がかかり、高校生が実際に手を動かしながら学べるように工夫しました。

最終的には、彼らがAIの脆弱性の重要性を理解し、興味を持ってもらえたことに大変満足しています。この経験を通じて、教育の難しさとやりがいを改めて感じました。

執筆:大坂 一貫

到遠館高校の生徒たちの訪問を通して、専門分野をかみ砕いで説明することの難しさを痛切しました。

私はワークショップ内でCNNの説明をしたのですが、自分なりに工夫したつもりでもプーリング層の説明が上手く伝わらず、分かりやすく教えるというのはとても難しいことなのだなどと改めて実感しました。

大学にいと自分と同じ専門分野の人との関りが多くなるので、このような自分とは違う環境にいる人との交流は自分を客観的に見つめなおすのにとってもいい機会になりました！普段のスライド作成や学会発表でも今回の気づきを活かしていこうと思います。

また、今回自分が教える側に回ることで今まで頂いてきた教育を、次世代に繋げられているような気がして嬉しく感じます。

執筆:石津 七海

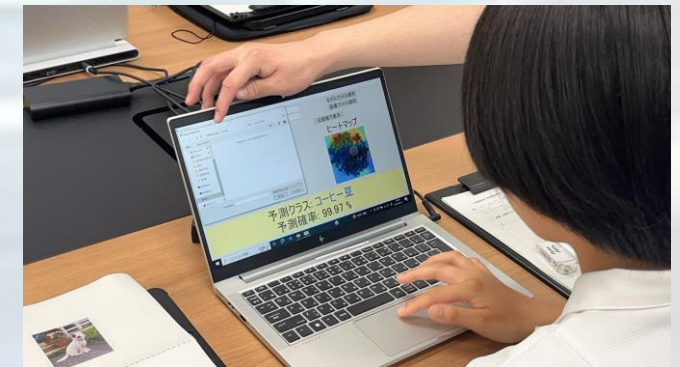
致遠館の高校生訪問の運営に携わる機会を得て、非常に有意義な経験となりました。高校生の反応を見ながら「AI」への興味や知識などを直に感じる中で、研究内容を第三者に分かりやすく伝える難しさと大切さも学びました。

運営としては、時間管理や別の研究室に誘導することもありましたが、誘導中に高校生とのコミュニケーションを意識しました。大学生への印象や研究室のよい雰囲気を共有できたと思います。

改めて、発表者を支える立場として、発表しやすい環境づくりを行う重要性和難しさを感じることができました。同時に、今後は伝える力を身につけて、学会等でも活かしていきたいです。

石津さん大坂さん、短い準備時間でとても大変だったと思いますが、お疲れ様でした。

執筆:大岩根 健吾



先生コラム【AI自動翻訳時代の異文化コミュニケーション】

皆さんは、外国語……特に英語はお得意ですか？

かくいう私は、英語を聞く＆話す都非常に苦手です。大学院の授業を聞かされている学生さんは、きっと「奥村先生は英語めっちゃ下手くそやな」と感じられていると思います。職務上、「使わざるを得ない」ので使っていますが、英語が非常に堪能なC P Sの日本人学生や留学生の皆さんを内心羨ましがっています。

最近、海外旅行中も、インターネットに繋がる端末や自動翻訳機があれば、会話に若干のタイムラグは生じますが、意思疎通は充分可能です。私が学生だった40年前の翻訳はキーボード入力しかできず、翻訳文自体も「Time flies like an arrow.」を「時バエは矢を好む。」といった、意味不明な文を生成するだけでしたが、今は、画像入力してメニューにも対応できるし、音声入力や音声発話も機能しています。実際、私がベトナムで現地の方と会話する時も、翻訳機能が活躍してくれます。いずれは、タイムラグも翻訳制度も向上するでしょう。でも、AI自動翻訳全盛な今こそ、私は皆さんにあえて「英語を恥ずかしがらずに話そう!」、さらに、「ちょっとした挨拶くらいは現地語を使おう」ということを主張したいと思います。異文化コミュニケーションは、そうした「ちょっとした」勇気と努力から飛躍的に育ちます。留学生が多数在籍し、国際系の学生さんが交流機会を企画してくれるC P Sの環境を、ぜひ最大限活用して頂ければと思います。ちなみに、個人的には英語に加えてイタリア語もおすすめ外国語です。発音に声調(中国語は4種類、ベトナム語は6種類)がなく、カタカナをそのまま読めば結構通じますし、音楽の時間に習った単語もたくさんあります。同じラテン語起源のスペイン語、ポルトガル語、フランス語と単語に類似点がありますから、楽しくが学習できます。少しの勇気をもって、Let's 異文化コミュニケーション!!

執筆: 奥村 浩

スポット Share ♪

皆さんにお勧めの場所・観光スポット(飲食店or地元or観光地)を紹介させていただきます!

札幌のテレビ塔からほど近い「二条市場」は、新鮮な海産物が豊富に揃う場所です。特に人気なのが、地元で捕れたばかりの魚介類を使用した海鮮丼です。脂の乗ったサーモン、甘みのあるウニ、新鮮なイクラなど、新鮮な具材がたっぷりと盛り付けられ、見た目も味も絶品です。市場内の多くの店舗がそれぞれ自慢の海鮮丼を提供しており、観光客だけでなく地元の人々にも愛されています。ボリュームたっぷりでリーズナブルな価格も魅力で、札幌観光の際には外せないスポットです!

執筆: 本屋敷叶輔(福田研)

私が紹介するおすすめスポットは、北海道倶知安町にあるニセコ東急 グラン・ヒラフというスキー場です。滑走距離がとても長く、最も長いコースは5.6kmもあります。コースが広くて爽快感が味わえる上、雪質も非常に柔らかいため、転んでも全く痛くありません。初心者にもおすすめの場所です。また、周りにはおいしいお寿司やジンギスカンのお店があるので、スノーボードやスキーを楽しみたい方はぜひニセコに行きましょう!

執筆: 松本光樹(福田研)



パラスポーツ体験

パラスポーツを体験しての感想を書いています!

ゴールボールとサウンドボールテニスの2種類のパラスポーツを体験しました。まずスポーツの前に全盲状態での歩行体験をしました。全盲の状態では壁の距離感が感知できず補助なしでは歩くことが困難でした。サウンドボールテニスでは特にボールの距離感を把握するのが困難で、空振りが多くラリーを2、3回続けるのが精一杯でした。

今回の体験会で実感したのは物体との距離感を把握する難しさと自分の行動を把できないことからくる不安感です。普段は自分の姿を視覚で把握することができるのでボールの打ち方の修正練習が容易にできます。しかし、音だけではとても把握できずパラスポーツの難しさと周囲のサポートの重要性を理解することができました。

執筆: 大部 寛翔(福田研)

先月、SAGAパラスポーツセンターでサウンドテーブルテニスとゴールボールを体験しました。どちらの種目もボールの中に音が鳴るものが入っており、目隠しをした状態で音を頼りにボールの位置を把握することが求められます。特に難しかったのはサウンドテーブルテニスで、ボールとの距離や軌道を読み、正しい方向にタイミング良くラケットを振らないと、ボールは外に出たり自分のコートで止まったりしてラリーが続きません。実際にはサーブで得点が入ることが多く、物体の位置を音だけで正確に把握する難しさを実感しました。この体験を通して、視覚に頼らずプレイする難しさと、それを克服する選手たちの努力の凄さを痛感しました。

執筆: 大西 晃生(福田研)



編集後記



↑背景画像 撮影: 江下駿人

こんにちは、広報の姫城です。

今回の背景画像は江下駿人さんから提供していただいた写真です。ありがとうございます!

最近、体力づくりのために大学のプールで泳ぎ始めました。勉強、バイト、研究、就活...やはり体力が全て解決すると感じるようになりました。皆さんも夏バテにはご注意ください!